

# 小P連からの活動報告

令和5年1月30日（月）に、「いろんな友達とわたし～親子で考える教室のダイバーシティ～」をテーマに講演会が行われ、聖小から2名の保護者の方が参加してきました。

子どもたちの発達は十人十色です。講師の先生は子どもたちを虹のように例えるなど、子どもたち一人一人の違いを認め合う事の大切さについて、とても貴重なお話しをしてくださいました。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ～参加された方より～ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

子どもたちの様々な発達の違いを虹の色に例えてその特性などを紹介してくださり、どの色が良くてどの色が悪いということではなく、それぞれの良いところを伸ばしてあげて、できないところは無理にできるようにさせるのではなく、適切なフォローが必要なのだということでした。

また、普通ってなに？という問いかけが印象的でした。授業中静かに座っていられること。漢字が書けて計算ができること。クラスの大多数の子が出来ることが出来なければ普通ではないのか。これまでの教育現場では一律に普通であることを求められ出来ない子は出来るように指導されてきたけれど、みんな同じである必要はなく違いを認め合うことが大切なのだと考えさせられました。



子どもから大人まで、様々なタイプの人がいてその特性を虹の色に例えてお話しをしていただきました。

みんなそれぞれ得意なこと不得意なことがあり、得意なことを伸ばして不得意なところはフォローしていくことが今後の教育に必要とお話しをしていました。

今までの考え方とは違いみんながお互いを認め合って、フォローしたりされたり出来るようになることイジメなども少なくなるんじゃないかな？と思いました。

